

小学校第1学年 造形遊びをする活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○材料を基に造形的な活動を思い付き、思いのままにつくる。 ○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。 【A表現(1)ア(2)ア】【B鑑賞(1)ア】(共通事項)
【題材名】	<h2 style="text-align: center;">いっぱいいつかってなにしよう</h2> <p style="text-align: center;">～ひかるわりばしをならべて、つんで、ひろげてたのしもう～</p>
【題材目標】	○光る割り箸を並べたり積み上げたりするときの感覚や行為を通して、形や色などに気付き、光る割り箸に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくるようにする。 ○光る割り箸の形や色や触った感じなどを基に自分のイメージをもちながら造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかを考えるとともに材料やつくったものの造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げるようにする。 ○たくさんの光る割り箸を使って、楽しんで思い付いたことを試す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・光る割り箸を並べたり積み上げたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。 ・光る割り箸に十分に慣れるとともに、並べたり積み上げたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してついている。	・光る割り箸の形や色、触った感じなどを基に自分のイメージをもちながら造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かして、どのように活動するかについて考えている。 ・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、光る割り箸やつくったものの造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり、鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。
- イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

自分の感覚や光る割り箸を並べる行為を通して、いろいろな形や色などに気付き、光る割り箸の形や色を基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的
1	○題材と出会う。 ○1色の光る割り箸を並べたり、積んだりして試す。 ○3色の光る割り箸の色や形を生かして、並べたり積み上げたりすることを楽しむ。	知・技 光る割り箸を並べたり積み上げたりするときの感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。【観察・写真記録】 光る割り箸の特徴を十分に理解して、並べたり積み上げたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してついている。【観察・写真記録】	●	●	●
2	○電気を消すと、割り箸が光ることに気付く。 ○光る割り箸の積み上げ方、並べ方、色の組み合わせ方などをいろいろ試して、楽しんで活動する。 ○互いにつくったものを見合う。 ○友達がつくったものの面白いところを発表する。	思・判・表 光る割り箸の形や色、触った感じなどを基に自分のイメージをもちながら造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かして、どのように活動するかについて考えている。 【観察・写真記録】 いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、光る割り箸やつくったものの造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。 【観察・写真記録】 主 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。【観察・写真記録】	●	●	●

研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

光る割り箸を並べたり積み上げたり広げたりするときの感覚や行為を通して、形や色などに気付き、細長い形を生かしたり3色の割り箸を使い分けたりして、楽しんで活動していた。割り箸を並べたり、積んだり、広げたりする中で、今つくったものをつくりかえたり、新しい割り箸を足したりしながら思いのままに取り組み姿が見られた。

○本題材における3つの工夫と1つの視点（出あいの工夫、場の設定の工夫、共感的支援の工夫、小中一貫の視点）

・出あいの工夫

見通しをもつためにを組み合わせた割り箸を一瞬見せて、「何だった？」と聞くと、すぐに児童から「割り箸！」という答えが返ってきた。「割り箸を使ってどんなことができるかな？」と投げかけ、児童に実際に並べたり、積んだりするアイデアをみんなの前で紹介した。「そのためには割り箸はどのくらいほしい？」と聞くと「いっぱい！」と返ってきたため、題材名と本時のめあてを児童と共有した。

日ごろ合言葉として児童と使っている「アンドラ、インドラ、ウンドラ」の呪文を唱えて、たくさんの割り箸と出あうようにした。この時点ではあえて総数の半分程度の量にして、活動の中で児童から「もっと欲しい！」という声が出たときに増やすようにした。導入の時点で見通しをもたせ、早く活動に取り組みたいという気持ちを高めるように工夫した。

・場の設定の工夫

子どもたちが活動の中で、自然と互いがつくっているものを見合ってイメージを膨らませられるよう、割り箸は中央に置き、自由に取りに来ることができるようにした。また、製作時を「朝」、ブラックライトを使う時は「夜」と呼んで、児童が活動を切り替えやすいようにした。

・共感的支援の工夫

並べたり、積んだり、広げたりしている姿を「どんなことができた？どんなイメージ？ここここは色が違うね。並べてみたんだね！積んでみたんだね！広がってるね！」とたくさん認めた。児童のイメージを聞いたり価値づけたりすることで、本人だけではなく他の児童も安心して活動に取り組みめるようにした。

・小中一貫の視点（幼保小のつながりの視点）

遊びを大事にしている。一人で黙々と取り組む姿も、友達と取り組む姿も、どちらも夢中になって取り組む姿として声を掛けたり、見守ったりした。

○【共通事項】の捉えと、そのための手立て

① 形や色に気付くための手立て

導入で児童のアイデアを全体に共有し、見通しをもてるようにした。はじめに光る割り箸を1色に限定し、お試タイムをとった。十分な量の割り箸を用意した。

② イメージをもつための手立て

割り箸は中央に置き、自然とお互いがつくっているものを見合ってイメージが膨らむようにした。

○本校として、題材の位置づけや価値が適切であったか、他教科とのつながり、地域との連携など持続可能か

本校には生活科ルームがあり、児童がプラカップやブロックなどを大量に使って遊ぶ姿は、わくわくタイム（スタートカリキュラム）を中心に年度当初から見られていた。今回は生活科ルームにはない、身近な材である割り箸を港南区の幼保小教育交流事業の教材として借りることで、児童の新しい材料にふれる経験を増やすことができた。

2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

活動が始まってから手が止まったり、固まったりしてしまうのではないかと心配していた児童が何人かいたが、全員が自分のイメージをもちながら光る割り箸を並べたり、積んだり、広げたりすることができた。中でもB児は、「並べていたら迷路に見えてきた。」と言って黙々と割り箸を並べていた。途中から色分けされていたので聞くと「オレンジは普通の道、青は海の道、赤はマグマで（他の赤い割り箸に）ワープする。」と話していた。2時間目には近くにいた児童数人も一緒に迷路をつくっていて、授業が終わる頃には視聴覚室の端から端まで広がっていた。この児童は、夏休み前の絵日記でこの学習のことを「むずかしかったけどたのしかった。」「ゴールがみつからないくらいおきいめいろができた。」と振り返っていて、自分なりにイメージをもち、最後まで取り組むことで「できた！」という実感を得ることができたのではないかと考えられる。

どの児童も自分なりの思いや願いをもち、試行錯誤しながら、意欲的に取り組む姿があった。しかし、全ての児童が自分の変容を実感できるための振り返りの手立てが用意できるとよかった。

一人ひとりが思いをもってイメージを広げながら活動に取り組んでいる様子があり、教師との対話や材料との対話を見とることができた。しかし、1年生の実態として「先生に見てほしい」という思いが強い児童が多かった。活動の中では、あえて友達と見合ったり対話したりする時間を取らなかったが、自然に友達と関わって自分の見方や感じ方を広げたりしている児童もいた。

今回の授業実践とメンターの授業研とを兼ねることで、複数の教員に授業を参観してもらい、子どもたちの思いやイメージをたくさん聞くことができた。また、校内メンターとして図工や造形遊びについて扱う貴重な機会となった。事前に参観者に「造形遊びだからこのように声を掛けてほしい」という具体的な声かけの内容を伝えていたため、事後研では実際の児童の様子から、共感的支援による児童の姿を振り返ることができた。